

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法法人ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	平成31年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年3月12日	外部評価確定日	令和元年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成17年11月1日に開設し、14年目を迎えます。閑静な住宅街の中にあり、自然環境にも恵まれ、ウッドデッキから見える景色は美しく、四季の移ろいを肌で感じる事ができます。畑には季節の野菜を作り、新たに車椅子でも移動可能な散歩コースを整備したことで、野菜の収穫等に入居者様が積極的に参加できるようになり、野菜の成長を心待ちにされ、入居者様の憩いの場となっています。とれた野菜は漬物や料理に使用し、召し上がって頂いています。職員は、入居者様の立場に立った支援を心掛けており、職員も環境の一部であることを意識し、居心地の良い、静かな環境づくりに努めています。入居者様は和やかな雰囲気の中で、自分らしく生活されています。ここでの暮らしを長く続けて頂けるよう、医療面は訪問看護師と24時間連携がとれ、早期に対応し重度化を防ぎ、入院日数の減少に繋がっています。併設事業所の理学療法士、栄養士との連携を図り、入居者様の現状に即したケアを提供しています。また、併設の特別養護老人ホームは31年の歴史があり、現在、新施設建築中で10月に移転します。今後ますます介護の拠点として、地域社会に貢献して参りたいと思います。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム建設前に地域住民にグループホームや認知症の理解を深める説明会を行い、開設後には事業所の行事に地域の方を招き地域に根付く取組みや地域に貢献する活動を行っている。事業所は自然に囲まれ法人内の敷地に整備された遊歩道があり四季を楽しむことができる。室内は利用者の暮らしを尊重した空間を作り出し、利用者の表情は明るく元気に過ごされ、庭にある畑では野菜を育て収穫することができる。収穫した野菜を利用者と職員が一緒になり調理するのも楽しみのひとつになっている。それ以外にも日中にはレクリエーションや体操などの活動を行うことで夜間帯の良眠に繋がり生活リズムが形成されている。特別養護老人ホームを中心にデイサービスなどの事業所が併設しており、他事業所の専門職が訪れアドバイスをもらうことができる。施設理念である「自分らしく、ほがらかに」の基、職員が一人ひとりがより良いサービスを提供したいと思いで、入居者や家族の意向を尊重しその方に即した介護計画を作成している。他職種が協働し個別ケアを検討することで入居者が「自分らしく」暮らすことが出来ている事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に、理念の実現に向けてチーム一丸となり取り組んでいる。理念については入居者と共に、日々の朝礼で唱和し、正面玄関の見えるところに掲示している。	入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごしていただくことを念頭に、理念の実現に向けてチーム一丸となり取り組んでいる。理念については入居者と共に、日々の朝礼で唱和し、正面玄関の見えるところに掲示している。	開設当初の職員全員で考えた「自分らしくほがらかに」の基、利用者が安心して笑顔で生活できるよう他職種で話し合いチームケアを実践している。職員の入社時に教育を行い質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームきたがた湖山亭と合同でお月見会を開催し、地域の方の参加をよびかけ、交流の場を設けることが出来ている。地域のペタンク大会への参加や子供浮立にも来てもらう等、楽しい交流ができています。	グループホームきたがた湖山亭と合同でお月見会を開催し、地域の方の参加をよびかけ、交流の場を設けることが出来ている。地域のペタンク大会への参加や子供浮立にも来てもらう等、楽しい交流ができています。	地域の清掃活動に出向き交流を図ることで地域の行事に声を掛けて頂きご利用者と職員が一緒に参加をしている。また、事業所での行事の際には地域の方に声を掛け参加をして頂くことで社会性を感じる環境を作り出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームについての説明を行い、理解を深めて頂くよう取り組んでいる。	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームについての説明を行い、理解を深めて頂くよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の2か月の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や避難訓練への助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがっており意見や助言はサービスに活かしている。今年度より年3回他事業所と合同で開催している。	入居者様の2か月の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や避難訓練への助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがっており意見や助言はサービスに活かしている。今年度より年3回他事業所と合同で開催している。	運営推進会議へは、区長、武雄福祉部健康課、第三者委員、法人内の役職者などが参加し開催され、事業所運営や活動について話し合われている。	家族へ参加を促しているが、現状では参加頂くことが出来ていない。今後は、工夫をして参加して頂く事、会議内容を周知することを検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市や地域包括支援センターとは連携を図り、空床の情報提供や相談、報告が出来る関係を構築している。また、定期的に介護相談員の訪問もあっている。	日頃より市や地域包括支援センターとは連携を図り、空床の情報提供や相談、報告が出来る関係を構築している。また、定期的に介護相談員の訪問もあっている。	行政に事業所のちらしを持って空き状況を報告をしている。また行政からも空き状況を確認され、満床の際にはケアマネを紹介するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行政指導や見解、制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても、三大原則を厳守し、専門家として入居者様の生命と尊厳の両立を最大限実現出来る様配慮している。玄関の施錠は、職員と家族と十分な協議を行い、柔軟に対応をしている。	行政指導や見解、制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても、三大原則を厳守し、専門家として入居者様の生命と尊厳の両立を最大限実現出来る様配慮している。玄関の施錠は、職員と家族と十分な協議を行い、柔軟に対応をしている。	ケアの関わり方や環境面を工夫することで、身体拘束はない。テラスにも自由に出入りが可能で、身体拘束について法人内で研修会を開催し知識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話し合う機会を設けている。職員は、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。また、職員のメンタルヘルスにも力を入れている。	法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話し合う機会を設けている。職員は、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。また、職員のメンタルヘルスにも力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修で学んだ事は、チームで共有している。	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修で学んだ事は、チームで共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえで行っている。解約は本人や家族が困らないように今後の事を十分に話し合い納得を得ている。	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得たうえで行っている。解約は本人や家族が困らないように今後の事を十分に話し合い納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く要望により、外食や外出に出掛けている。ご家族には毎月お便りと行事や日頃の様子を写真を送付し、面会時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞き運営に反映できるよう努めている。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	入居者からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多く要望により、外食や外出に出掛けている。ご家族には毎月お便りと行事や日頃の様子を写真を送付し、面会時や、サービス担当者会議の時に意見や要望を聞き運営に反映できるよう努めている。また、第三者窓口について説明しホーム内に掲示し、苦情受付箱を設置している。	日常のコミュニケーションの中で利用者から要望を聞き、家族への報告を行っている。苦情箱は設置しているが投函されたことはなく、面会時に要望を直接聞くことがある。その際には、対応した職員が事業所に報告し、改善や工夫等出来る点を家族へ報告し運営している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議で、自由に意見が出せる雰囲気作りを行っており、職員からも意見や提案がある。管理者はその内容を検討して可能な限り、意見や提案を運営に反映させるようにしている。代表者は定期的に個人面談を実施し、意見については集約後、改善に向け取り組んでいる。	毎月のグループホーム会議で、自由に意見が出せる雰囲気作りを行っており、職員からも意見や提案がある。管理者はその内容を検討して可能な限り、意見や提案を運営に反映させるようにしている。代表者は定期的に個人面談を実施し、意見については集約後、改善に向け取り組んでいる。	理事長と施設長が職員と個別に面談を年に2回実施され、意見交換を行い改善に向け取り組んでいる。事業所の会議や日常の業務の中でも活発な意見交換を行い、利用者の生活の質を高めるため、まずは実践し新たな問題については議論を繰り返し改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価と目標管理シートを全職員に提出させており、個人面談も行っている。それを管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に活かしている。	年2回自己評価と目標管理シートを全職員に提出させており、個人面談も行っている。それを管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に活かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に、外部講師を招いたり、老施協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。また、年に1回法人研修会で実践報告を行い、日頃のケアの質の向上を図っている。	内部研修に、外部講師を招いたり、老施協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。また、年に1回法人研修会で実践報告を行い、日頃のケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県グループホーム協会に所属し、職員を研修等に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事に参加をしてもらう等交流を深め、サービスの質の向上に努めている。	佐賀県グループホーム協会に所属し、職員を研修等に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事に参加をしてもらう等交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活歴や性格を考慮し、寄り添い、本人の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、安心して過ごしてもらうよう、関係作りに努めている。聞いたことは、全職員に伝え、情報を共有し、信頼関係の構築に努めている。	これまでの生活歴や性格を考慮し、寄り添い、本人の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、安心して過ごしてもらうよう、関係作りに努めている。聞いたことは、全職員に伝え、情報を共有し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、適切なサービスに繋げている。必要に応じて、在宅サービス等を提供したり、紹介したりしている。	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、適切なサービスに繋げている。必要に応じて、在宅サービス等を提供したり、紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の体験談や会話の中から学ぶ所は学び、その方の得意とする分野の力を、発揮してもらうことにより自信をもって生活出来るように支援している。また、分からないところは入居者様に尋ねながら行うようにしている。	利用者様の体験談や会話の中から学ぶ所は学び、その方の得意とする分野の力を、発揮してもらうことにより自信をもって生活出来るように支援している。また、分からないところは入居者様に尋ねながら行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に入居者様の状態を報告し、要望などを伝え理解して頂き、職員と家族が互いに協力する事で本人を支えていく関係を築いている。また、言われたことや思いも伝え、本人とご家族の絆を大切にしたい支援が出来る。	定期的に入居者様の状態を報告し、要望などを伝え理解して頂き、職員と家族が互いに協力する事で本人を支えていく関係を築いている。また、言われたことや思いも伝え、本人とご家族の絆を大切にしたい支援が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、馴染みの美容室へ散髪に行ったり、買い物や病院受診時に、馴染みの方との関わりを大切にしている。施設訪問の地域ボランティアの方が定期的な訪問して下さり、関係の維持が出来ている。	本人の希望により、馴染みの美容室へ散髪に行ったり、買い物や病院受診時に、馴染みの方との関わりを大切にしている。施設訪問の地域ボランティアの方が定期的な訪問して下さり、関係の維持が出来ている。	訪問理容室を利用することは可能であるが、希望があれば家族対応で馴染みの美容室等に行くことができる。友人の方の面会や近所の方との付き合いもあり関係性を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶時など、入居者様それぞれが誘いあい、お互いに支え合える関係性の構築ができています。また、入居者様の関係を把握した上で、定期的にソファやテーブルの座り位置を変え、人間関係が円滑に行くよう環境づくりに努めています。	食事やお茶時など、入居者様それぞれが誘いあい、お互いに支え合える関係性の構築ができています。また、入居者様の関係を把握した上で、定期的にソファやテーブルの座り位置を変え、人間関係が円滑に行くよう環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、面会や様子を伺い、これまでの関係性を大切にしています。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援を行っている。同一敷地内に移られた方へ、入居者様と共に、定期的に面会に行っている。	利用が終了しても、面会や様子を伺い、これまでの関係性を大切にしています。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援を行っている。同一敷地内に移られた方へ、入居者様と共に、定期的に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	関わりを大切に、その方の思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動などから発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。困難な場合は、家族に協力を依頼し、できるだけ本人本位になるように努めている。	関わりを大切に、その方の思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動などから発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。困難な場合は、家族に協力を依頼し、できるだけ本人本位になるように努めている。	家族の面会時や電話で意向を確認し、利用者には直接確認をしている。コミュニケーションが困難な利用者については、日常のケアで小さな変化に気づき事業所内で情報を共有するよう取り組み、他職種の専門的な意見と統合し利用者中心のケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過をフェースシートに記入し、チームで共有できるようにしている。使用されていた家具やテレビ等を居室に置いてその方の馴染まれた環境の中で生活して頂けるよう支援している。	生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過をフェースシートに記入し、チームで共有できるようにしている。使用されていた家具やテレビ等を居室に置いてその方の馴染まれた環境の中で生活して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、出勤時に必ず目を通し現状の把握に努めている。状態変化時は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアに繋げている。プランの実行中も介護経過記録や日々の記録を参考に現状の把握に努めている。	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、出勤時に必ず目を通し現状の把握に努めている。状態変化時は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアに繋げている。プランの実行中も介護経過記録や日々の記録を参考に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員による1か月ごとのモニタリングを実施し、状態変化時は、随時個別のカンファレンスを行い集約後、現状に即した介護計画に活かしている。本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、スタッフ、訪問看護師、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。	担当職員による1か月ごとのモニタリングを実施し、状態変化時は、随時個別のカンファレンスを行い集約後、現状に即した介護計画に活かしている。本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、スタッフ、訪問看護師、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。	毎月1回のモニタリングを行い、介護士や訪問看護師、法人内の栄養士や理学療法士が意見交換を行い介護計画を作成する。サービス担当者会議には家族も参加し計画内容を伝え同意の基ケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録、施設介護経過、申し送りノートに記入し、全職員が入居者様の現状を共有している。また、情報を踏まえて意見を出し合い、モニタリングを実施し、ケアプランの見直しに活かしている。	入居者の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録、施設介護経過、申し送りノートに記入し、全職員が入居者様の現状を共有している。また、情報を踏まえて意見を出し合い、モニタリングを実施し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に必要なニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、その時々でのニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。入居者様の状態の変化は、家族の要望などに応じて、主治医との連携をとり、受診などの対応をしている。	本人やご家族の状況、その時々でのニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。入居者様の状態の変化は、家族の要望などに応じて、主治医との連携をとり、受診などの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れをしており、傾聴や年末の大掃除等に協力して下さっている。高校生や専門学生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。	地域ボランティアの受け入れをしており、傾聴や年末の大掃除等に協力して下さっている。高校生や専門学生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、困難な場合は、往診を依頼したり、受診に同行している。医療機関との情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。その際、訪問看護師に、医療面からの情報提供書を作成してもらい、円滑な受診に繋がっている。	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、困難な場合は、往診を依頼したり、受診に同行している。医療機関との情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。その際、訪問看護師に、医療面からの情報提供書を作成してもらい、円滑な受診に繋がっている。	以前からのかかりつけ医に受診もしくは往診することが基本となっている。休日や夜間帯も連絡が取れる体制となっている。かかりつけ医の都合で対応できない時には、休日診療を対応するなど緊急時の取り決めもされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、24時間連絡可能な体制になっている。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、訪問看護師に報告相談し、主治医との連携をとりながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	訪問看護師と契約しており、24時間連絡可能な体制になっている。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、訪問看護師に報告相談し、主治医との連携をとりながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、入院前の病状やADLを説明し情報提供を行っている。また、家族様との連携を密に行い、早期退院に向け、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、病院関係者との関係づくりに努めている。	入院の際は、入院前の病状やADLを説明し情報提供を行っている。また、家族様との連携を密に行い、早期退院に向け、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応や看取りにかかわる指針を説明している。重度化した場合は、本人と家族の希望を尊重し、できることを十分に説明しながら方針を共有し、医療共に、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合における対応や看取りにかかわる指針を説明している。重度化した場合は、本人と家族の希望を尊重し、できることを十分に説明しながら方針を共有し、医療共に、チームで支援に取り組んでいる。	日中の医療行為は対応できる。しかし、夜間帯に点滴や喀痰吸引が必要になった場合は家族へ説明し同意のもと、母体である特別養護老人ホームへの入所となる。その為、看取りの実績はない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、毎年消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用方法、急変時の対応について勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。急変時の対応については、マニュアルを作成し、スタッフルームに掲示している。	法人にて、毎年消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用方法、急変時の対応について勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。急変時の対応については、マニュアルを作成し、スタッフルームに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間に、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力をしていただき、地域と一体になった避難訓練を実施している。スピーカーを設置しており、非常時には近隣住民にも知らせるようになっている。施設内の同法人施設は市の福祉避難所や原子力災害時の避難所にも指定されており、非常食等も備蓄している。	年2回、昼間と夜間に、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力をしていただき、地域と一体になった避難訓練を実施している。スピーカーを設置しており、非常時には近隣住民にも知らせるようになっている。施設内の同法人施設は市の福祉避難所や原子力災害時の避難所にも指定されており、非常食等も備蓄している。	年に2回、法人全体での避難訓練を実施されている。法人内での協力体制やマニュアルもあり、地域住人には放送による非常ベルで知らせることができる。訓練には消防署職員や消防団、地域の方も参加し取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	理事長の考えである「利用者の人権や尊厳を尊重すること」を職員一人ひとりが理解しケアに活かしている。接遇の研修を法人全体で行い、各事業所が意識し現場で指導することで、利用者との目線を合わせ丁寧な言葉遣いで会話を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの美容院に行ったり、愛用の化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきていただいている。また、定期的に訪問理容に散髪して頂いている。男性の入居者様は毎日ひげそりをし、身だしなみを整えている。	本人の希望により、行きつけの美容院に行ったり、愛用の化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきていただいている。また、定期的に訪問理容に散髪して頂いている。男性の入居者様は毎日ひげそりをし、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、希望により外食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。食事形態は、嚥下状態に合せ、食器も介護用の物を使用するなど、個々の状態に合せた支援が来ている。台所仕事がお好きな方には、食器洗浄やお盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。畑の野菜を収穫し、入居者様とともに調理している。	誕生日には、希望により外食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。食事形態は、嚥下状態に合せ、食器も介護用の物を使用するなど、個々の状態に合せた支援が来ている。台所仕事がお好きな方には、食器洗浄やお盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。畑の野菜を収穫し、入居者様とともに調理している。	食材の皮むきや食器の洗浄など、できる事は協力を促し実施している。現場の意見で、月に数回はお惣菜を1品増やしたり、好きなおやつを提供できるような取り組みも始め、誕生日には外食するなど事業所外での楽しみを提供できる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や力に合わせた食事量を提供している。アルブミン値の低い方には栄養補助食品で補っている。水分量の少ない方には、ゼリーやお好きな飲み物を提供し、水分制限のある方にはポカリ氷を提供している。食事や水分量は毎日記録し管理している。	個々の状態や力に合わせた食事量を提供している。アルブミン値の低い方には栄養補助食品で補っている。水分量の少ない方には、ゼリーやお好きな飲み物を提供し、水分制限のある方にはポカリ氷を提供している。食事や水分量は毎日記録し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯や自歯の洗浄をして頂き、磨き残しや舌の汚れは、一部介助を行い、誤嚥性肺炎予防や清潔保持ができています。歯科医が薦める洗口液で口臭予防に繋がっている。夜間帯は義歯洗浄剤に浸け管理している。必要に応じ、訪問歯科を利用し、口腔の管理に努めている。	毎食後義歯や自歯の洗浄をして頂き、磨き残しや舌の汚れは、一部介助を行い、誤嚥性肺炎予防や清潔保持ができています。歯科医が薦める洗口液で口臭予防に繋がっている。夜間帯は義歯洗浄剤に浸け管理している。必要に応じ、訪問歯科を利用し、口腔の管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、不安の軽減の為排泄用品の選定、言葉かけや定時のトイレ案内を行い、排泄の失敗の減少に努めている。布パンツに近い紙オムツの使用で、不安の軽減に繋がった。また、排泄に失敗された場合でも、さげない介助を心掛けている。	個々の排泄パターンの把握に努め、不安の軽減の為排泄用品の選定、言葉かけや定時のトイレ案内を行い、排泄の失敗の減少に努めている。布パンツに近い紙オムツの使用で、不安の軽減に繋がった。また、排泄に失敗された場合でも、さげない介助を心掛けている。	排泄パターンを把握し、尊厳に配慮し声掛けを行いトイレ誘導を促し、必要時には夜間帯にポータブルトイレを使用し対応している。利用者の3割程度がおむつを使用し生活をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑で採れた野菜を提供したり、水分を多めに摂ってもらったり、ヨーグルトや食物繊維等の食品を取り入れ、予防に努めている。毎日数回リハビリ体操で体を動かしている。	畑で採れた野菜を提供したり、水分を多めに摂ってもらったり、ヨーグルトや食物繊維等の食品を取り入れ、予防に努めている。毎日数回リハビリ体操で体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個室で入浴されており、時には仲のいい入居者同士で入られたり、ゆず湯等で季節感を感じて頂いている。リスクのある方は、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方には、無理強いせず別日にて対応している。	個室で入浴されており、時には仲のいい入居者同士で入られたり、ゆず湯等で季節感を感じて頂いている。リスクのある方は、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方には、無理強いせず別日にて対応している。	午後から入浴することが基本であるが、希望があればその時間帯で入浴できる体制を検討することも可能である。浴室は広く、福祉用具を使用し一人ひとりにあった方法で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や談話コーナーで寛いだり、午睡を促し適度な休息の時間を設けている。夜は、自室に友人を招き会話したり、テレビ視聴後就寝されている。又、室温調整を随時行い、湯たんぽや、愛用品の寝具で眠られ、不眠時はホットミルクを提供し、安心感を感じて頂けるよう支援している。	居室や談話コーナーで寛いだり、午睡を促し適度な休息の時間を設けている。夜は、自室に友人を招き会話したり、テレビ視聴後就寝されている。又、室温調整を随時行い、湯たんぽや、愛用品の寝具で眠られ、不眠時はホットミルクを提供し、安心感を感じて頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケースに最新の薬情を入れ内容に変更があった時は、申し送りに記入し一人ひとりが服用されている薬を理解し、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止の為4回の確認を行い、服薬の際は名前と日付を声を出し確認の上、服用してもらっている。	個別のケースに最新の薬情を入れ内容に変更があった時は、申し送りに記入し一人ひとりが服用されている薬を理解し、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止の為4回の確認を行い、服薬の際は名前と日付を声を出し確認の上、服用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(うぐいす) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	衣類の補正や雑巾縫いや編み物、洗濯物たたみや居室や廊下の床拭き、計算ドリル等一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしていけるよう支援している。また買い物に出掛けられ、好きな菓子を選んだり、行事の際には、食事の要望を聞きながら計画を立て実施している。	衣類の補正や雑巾縫いや編み物、洗濯物たたみや居室や廊下の床拭き、計算ドリル等一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしていけるよう支援している。また買い物に出掛けられ、好きな菓子を選んだり、行事の際には、食事の要望を聞きながら計画を立て実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑に車いすでも通れる散歩コースを作り、自由に行き来されている。買い物やドライブ、外食等希望された際は、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、本人様のご家族様にお伝えし、外食の機会を設けて頂いている。	畑に車いすでも通れる散歩コースを作り、自由に行き来されている。買い物やドライブ、外食等希望された際は、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、本人様のご家族様にお伝えし、外食の機会を設けて頂いている。	買い物や毎月の行事の際に事前に計画を立案し外出の機会を設けている。法人の敷地内に遊歩道が整備され四季を楽しむことができ、机や椅子も設置されているため、お茶を楽しめるスペースとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や買い物で好きな物を購入され、支払いもご自分でされる。定期的に行きつけの美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、好きな物を購入され、支払いもご自分でされる。定期的に行きつけの美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もおられ、友人や家族に自分の好きなきときに連絡を取られている。年賀状や毎月のお便りには、直筆でメッセージを記入されている。	携帯電話を所持されている方もおられ、友人や家族に自分の好きなきときに連絡を取られている。年賀状や毎月のお便りには、直筆でメッセージを記入されている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(ひばり)	自己評価／ユニットB(うぐいす)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	干支の絵や運動会の賞状、献立等を掲示し、季節感や生活感を大切にしたい設えを心掛けている。温度や湿度照明等の調整をこまめに行い、職員も環境の一部であることを意識し、居心地のいい、静かな環境づくりに努めている。	干支の絵や運動会の賞状、献立等を掲示し、季節感や生活感を大切にしたい設えを心掛けている。温度や湿度照明等の調整をこまめに行い、職員も環境の一部であることを意識し、居心地のいい、静かな環境づくりに努めている。	木の温もりを感じれる建物で天井も高く天窓から日光が差し込み明るい空間が広がる。玄関には季節を感じることができる置物や花があり季節感も感じる工夫をされている。ユニット内に室温温度計を設置し各職員が意識して管理をしている。感染症対策で定時に換気を行い床の掃除なども利用者と協力し実践されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やウッドデッキのベンチ、談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている	玄関やウッドデッキのベンチ、談話コーナーのソファで独りで過ごしたり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの品物を持ってきていただき、自分の家により近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。自室に仲間を招きお茶や話をしたり テレビを見て心地よく過ごされている。	本人や家族と相談し、馴染みの品物を持ってきていただき、自分の家により近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。自室に仲間を招きお茶や話をしたり テレビを見て心地よく過ごされている。	テーブルや椅子、ソファなどを持ち込まれる事が多く、以前は仏壇を持ち込まれた事例もある。自由に家具家電を持ち込むことはできるが、火気のある物品については規制されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残された能力の見極め、道標や標示をすることで、できるだけ混乱の無いよう工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。	本人の残された能力の見極め、道標や標示をすることで、できるだけ混乱の無いよう工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない